

展 望

コーポレートメンバーの役割

太陽工業(株) 梶尾 孝之

私とIGSとの係わりは1985年に入社した時からはじまりました。IGSは1982年にラスベガスでジオテキスタイルの国際会議が開催され、1983年にパリで行われた会議でIGS本部の基礎が築かれたと聞きます。自分の職業人生の中で長いお付き合いをさせていただいている学会であります。現在、IGS日本支部コーポレートメンバー委員会の委員長を拝命しておりますが、浅学非才者でありますゆえ、皆様からのお知恵とご助言をいただきながら進めさせていただいております。今回、本誌「展望」に原稿執筆することを拝承しました折、何を題材にしようか？といささか迷いましたが、IGS日本支部のコーポレートメンバーのあるべき姿など最近の思いをまとめさせて頂くことにしたいと思います。

日本支部のコーポレートメンバーは、ジオシンセティックスメーカーだけでなく、ゼネコン、コンサルと幅広い分野の企業で構成されています。本稿の題目を「コーポレートメンバーの役割」と致しましたが、私自身がメーカーに籍をおいておりますのでコーポレートメンバーの中でもジオシンセティックスメーカーの立場、あわせて我々メーカーへの思いを軸に執筆させて頂く失礼をお許しください。

私が入社した頃、IGS日本支部は福岡正巳先生を中心にしてジオテキスタイル、ジオメンブレンという新しい分野の技術基盤の整備をしていた時代だったように思います。すでに土木用の織布や遮水シートは現場で使っていたいただいておりましたが、仮設資材として用いられることが多い、織布を用いた軟弱地盤土木安定シート等は、研究開発が活発に行われる以前の段階であり、数少ない文献や研究論文を参考にしながら適正材料を選定し使っていたような状態でした。

そのような中で「ジオ

表-1 IGS日本支部 年度別コーポレートメンバー登録企業

登録年	登録企業			
1984	旭化成ジオテック(株)	東急建設(株)	岡三リビック(株)	日本スパンボンド土木会
1985	鹿島建設(株)			
1986				
1987				
1988	(株)大林組			
1989	(株)クラレ			
1990	清水建設(株)			
1991	太陽工業(株)			
1992	前田工織(株)	三菱樹脂(株)	三井化学産資(株)	
1993	(株)田中			
1994				
1995				
1996	太洋興業(株)			
1997				
1998	RRR工法協会	(株)テクノックス	(株)複合技術研究所	
1999	(株)新井組			
2000	(株)ジオシステム	(株)ホーゲン		
2001				
2002				
2003	芦森工業(株)			
2004				
2005	東京インキ(株)	高麗川ポリエチレン管協会		
2006				
2007	(株)箱型擁壁研究所			

強土の設計・施工」のマニュアル化が旧建設省のご指導のもとで順調に進み、技術開発や材料開発が鋭意行われました。

『ジオテキスタイルやジオメンブレンを鉄やコンクリートに並ぶ新しい土木材料に！』という意識と意欲が我々民間企業(材料メーカー)にあり、さらに進んだ技術的な論拠付け、試験方法の統一、基準類の整備などジオシンセティックスに係わる研究を各方面の先生方や官庁のご担当、使用していただくゼネコンのご担当者のお力をお借りして進めていき使用実績を積んでまいりました。まさにこの時代は2006年3月号の本誌「展望」で三木支部長が執筆されている、IGSの草創期から発展期にあたります。

そのような中でIGS日本支部は活発に活動し、1984年には早くもコーポレートメンバーが本部登録されます。その後、2007年までに24社が登録している状況となりました。日本支部のコーポレートメンバーは、IGS設立当初からジオシンセティックスへの思いをはせた材料メーカーが大勢を占めておりIGSを支える原動力となっております。表-2に国別のコーポレートメンバーの登録数を示します。日本支部はIGSのコーポレートメンバーの登録数から見るとIGSメンバーの主要国の運営の中心となるべき登録数であることがわかります。

さらに1994年のシンガポール会議での総会で学会の名称が「国際ジオテキスタイル学会」から「国際ジオシンセティックス学会」に変更され、軽量盛土材料も適用範囲に含むことなどIGS関連企業の枠組みが広がりました。

表-2 国別コーポレートメンバー企業登録数

日本	24	フランス	3	オランダ	2	パナマ	2	チリ	1
アメリカ	13	ロシア	3	カナダ	2	デンマーク	1	アルゼンチン	1
イタリア	10	ドイツ	3	インド	2	コロンビア	1	コスタリカ	1
イギリス	6	ベルギー	3	マレーシア	2	チェコ	1	ベネズエラ	1
スペイン	7	中国	2	イラン	2	クロアチア	1	トルコ	1
オーストリア	4	台湾	3	メキシコ	2	アイルランド	1	ニュージーランド	1
ブラジル	4	ノルウェー	2	UAE	2	イスラエル	1	ルクセンブルグ	1
韓国	4	スイス	2	サウジアラビア	2	ウクライナ	1		

※2008年IGSwebサイトから調査 全125社

日本支部ではこれまで学会本部組織の運営には各方面の先生方や官庁のジオシンセティックス研究者の方々を推挙し中立、公平な立場で運営に携わっていただき、本部理事会への参画はもとよりIGS会長の要職についていただくなど、たいへん大きな成果を納めて頂いております。

日本支部コーポレートメンバーは、学会本部組織の運営に携わっていただいている日本支部選出の先生方に存分にご活躍していただけるような環境を作ることなど、後方からにはなりますが積極的に支援することが重要な役割の一つであると考えなければなりません。

海外のコーポレートメンバーはジオシンセティックス技術の向上と世界的なビジネスチャンス活用の結果、企業収益力を向上させるための手段としてIGSの活動に参加するというスタンスがわが国より目立ちます。あくまでも個人的な見解ですが海外のコーポレートメンバーはIGSの運営とビジネスモデルが等価になるような傾向があるのかも知れません。

このような背景のもと龍岡会長ならびに理事会のメンバーの先生方におかれましては学会運営の舵取りに、たいへんなご苦勞をお掛けしているのではないかと存じます。

私はIGS日本支部「ジオシンセティックス試験法委員会」や地盤工学会ISO TC221委員会活動に、各委員会における成果内容を日本支部のコーポレートメンバーへ水平展開する目的で出席させていただいております。あわせて「ISO試験法の基準化」について浅学な知見で恐縮ですがコメントする機会を頂いております。この委員会から感じる経験では、ジオシンセティックス分野において海外企業が持つビジネスリーダーシップを得るための動きは日本の感覚では図れない部分があると感じています。試験方法が素材や材料の性能評価に直結するため、素材・材料(製品)の性

能が不利にならないような試験方法が整備されるなど、多くの事項が海外での会議で議論され決まりつつあります。

日本支部コーポレートメンバー委員会は、IGS 本部の運営に対する日本支部の取り組み方として、これまでの路線を継続し各方面の先生方や官庁のジオシンセティックス研究者の方々による中立な立場で接していただくことが理想的であると考えております。前述の ISO 試験基準化などに代表される IGS における海外企業の動きに対して日本側の意見を海外の会議にて反映させて頂くために日本支部選出の IGS 理事の先生方には、引き続きご苦勞をお掛けすることになります。

したがいまして日本支部コーポレートメンバーには、試験方法、製造方法等において必要な情報を開示することや情報交換を行える場作りを積極的に行うことがさらに重要になってくると考えます。

一方、コーポレートメンバーの登録費用に見合う特典としてコーポレートメンバーに還元する題材についても IGS の中で様々な議論がなされてきました。国際会議や国際シンポジウムにおける「Corporate Members Reception」や IGS web サイトにおける企業コマースのスペースを各社に割り当てることなどが行われています。さらに本年は、IGS 設立 25 周年を記念して IGS に 20 年以上継続してコーポレートメンバーに登録しているメンバーを表彰するプログラムが GeoAmericas in Cancun, Geosynthetics Asia in Shanghai と EuroGeo4 in Edinburgh で行われ、各国のコーポレートメンバーにあわせて日本支部所属のコーポレートメンバーも表彰されました。

日本支部で独自に行われているコーポレートメンバーへの特典は「ジオシンセティックスシンポジウム」への招待や論文集の増刷発送、「ジオシンセティックス技術情報誌：コーポレートメンバー」における企業紹介掲載のほか同誌の増刷発送等が行われています。さらに、本年9月には図-2 IGS ロゴマークをコーポレートメンバー各社保有の印刷物、プレゼン資料等へ利用することが可能になりました。

コーポレートメンバーの特典については、コーポレートメンバー委員会内で継続的に議論していかなければなりません。

バブル経済時代の好調な景気動向が急変したことや建設投資の低下による建設産業の冷え込みの中、コーポレートメンバー登録数を維持し、さらに増やすことには順風とはいえない状況下ではありますが、前述のコーポレートメンバーの役割を各社があらためて認識することも大切であると考えております。同時にジオシンセティックスの多様化や新しい用途展開など異業種との協調も視野に入れてコーポレートメンバーの増加と活性化を図っていかねばならないと感じています。

日本支部コーポレートメンバーの各社には今後ともこれまでに変わらぬご協力をお願いいたします。



図-2 IGS ロゴマーク